

Kaga Electronics Group Report



宮坂 健《虹都市》

第**47**期 中間グループ報告書

平成26年4月1日 - 平成26年9月30日

人、未来、エレクトロニクス…
 **加賀電子株式会社**

東証一部：証券コード 8154

What's KAGA Group?

経営理念 すべてはお客様のために

加賀電子グループは、創業以来「すべてはお客様のために」という想いを胸に、電子部品の調達を事業の原点として、お客様のご要望にお応えしながら事業領域を拡大してまいりました。私たちは、今後も行動指針である「F.Y.T.」「3G」の精神に則り、エレクトロニクス業界の発展に貢献してまいります。

加賀電子グループの行動指針

F.Y.T.

【ファイト】

Flexibility
Young
Try

柔軟性を持って
心の若さを持って
絶えず挑戦

3G

General
Global
Group

あらゆるものを
全世界で
総合力を活かして

『エレクトロニクス総合商社』としてエレクトロニクスに関するあらゆるニーズにお応えします



加賀電子グループの事業領域

■電子部品事業

世界最高水準の部品を国内外から調達だけでなく、EMS^(注)(製品の受託生産)までお客様のご要望に合わせ提供しております。

(注) Electronics Manufacturing Service



■情報機器事業

国内外のPC・周辺機器や自社製品の販売から、電気通信工事からシステム構築までワンストップサービスで提供しております。



■ソフトウェア事業

コンピュータグラフィックスの作成やゲームソフトの制作、アミューズメント機器用画像の開発などしております。



■その他事業

(エレクトロニクスから派生する事業)
エレクトロニクス機器の修理・サポート、アミューズメント機器やスポーツ用品の販売など多様なニーズにお応えしております。



To Our Shareholders

■株主の皆様へ

成長分野への開拓に注力し、 更なる業績の向上に取り組んでまいります。



代表取締役会長 塚本 勲



代表取締役社長 門 良一

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当中間期（平成26年4月1日～平成26年9月30日）における事業環境および業績についてご報告申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、消費税増税にともなう駆け込み需要の反動などにより、一時的に個人消費の落ち込みがみられたものの、政府の積極的な経済対策や日銀の金融政策に支えられ、景気は緩やかな回復基調で推移しました。また、当社グループが属する

エレクトロニクスの世界は早いスピードで進化し、ビジネスの多様化が急激に進んでいます。

このような環境下において当社グループは、行動指針である「F.Y.T.」と「3G」の精神で、時代の変化をいち早く読み取りながら世界を舞台に新しいビジネスに挑戦し、事業の拡大を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループへのご理解とご支援を賜わりたくよろしくお願い申し上げます。

※本書におけるP2-6では、挨拶およびインタビューならではの表現を活かすため「中間期」と記し、P7以降については「第2四半期」と表記しております。

加賀電子グループ全体の中間期業績と今後について、塚本勲会長と門良一社長に話を聞きました。

Q 当中間期の業績についてご報告ください。

A 業績は売上高がほぼ横ばいですが、利益は当中間期の計画を上回る結果となりました。

会長／当中間期（平成26年4月1日～9月30日）のエレクトロニクス業界におきましては、消費税増税の影響により民生電子機器の需要の落ち込みがみられましたが、車載市場や無線・通信、環境・エネルギー市場の需要は引き続き拡大しました。また、メディカル・ヘルスケア市場も成長をみせ堅調であったと思います。



このような環境の中で当社グループは業績向上を目指し、グループ各社の連携を強化し、既存顧客への拡販、新規顧客の開拓など営業努力を重ねてまいりました。その結果、連結業績は売上高120,318百万円（前年同期比1.4%減）、営業利益3,067百万円（前年同期比39.8%増）、経常利益3,636百万円（前年同期比49.2%増）、そして、四半期純利益は2,157百万円（前年同期比59.4%増）となり、売上高はほぼ横ばいでしたが、利益面では期初に発表していた当中間期の計画を上回る結果となりました。

その要因として、成長分野として注力してきた「車載」「無線・通信」「環境関連」および海外におけるEMSビジネスが好調に推移したことや、更に本社移転による賃借料の減少など費用削減に努めたことが挙げられます。

社長／セグメント別では、「電子部品事業」については、国内のアミューズメント機器向けEMSの売上高が減少しましたが、中国やタイをはじめとする海外のEMSビジネスや医療機器向け半導体などが好調に推移したことにより利益は増加しました。

「情報機器事業」は、WindowsXPのサポート終了にともなうパソコンの買い替え需要が発生し、パソコンの出荷台数が増加しました。また、住宅や環境関連ビジネスなどが好調に推移したことで売上高は増加しました。しかしながら、デジタル家電の取扱い商品の入れ替えにともなう費用が増加し、利益は減少しました。

「ソフトウェア事業」につきましても、アニメー

ションのCG制作やゲームソフトの開発や販売に注力しましたが、電子玩具の開発などにおいて受注が減少したことや開発製品の償却などがあり減収減益となりました。

Q 当中間期の主な取り組みと成果についてお聞かせください。

A 海外ビジネスの拡大、業績不振子会社の改善に注力していきます。

社長／当中間期は海外ビジネスの拡大にも力を注ぎました。

東芝製半導体を取り扱う(株)イー・ディーデバイスが昨年11月に設立したAD DEVICE (SHANGHAI)

CO., LTD.の営業活動がいよいよ4月から本格的に開始しました。イー・ディーデバイスはこれまでに香港とタイに子会社を設立し、日系車載メーカーに製品を供給してきました。上海では日系自動車メーカーが生産拠点を構えていることから、今後の売上高拡大が大いに期待できます。5年後の売上高50億円達成を目指して精力的に活動しています。

また、5月には東南アジアでのEMSの拠点としてインドネシアにPT.KAGA ELECTRONICS INDONESIAを設立しました。既に協力工場で生産体制を整え、3年後には売上高30億円を目指しています。

今後も当社グループは海外ビジネスを強化していきます。

第47期中間 連結業績サマリー

売上高▶	1,203億円 ↓ (前年同期比 1.4%減)
営業利益▶	30億円 ↑ (前年同期比 39.8%増)
経常利益▶	36億円 ↑ (前年同期比 49.2%増)
四半期純利益▶	21億円 ↑ (前年同期比 59.4%増)



会長／前期に引き続き業績不振グループ会社の再建に取り組んできました。各社ごとに経営体制の見直しや事業移管等を行い、その成果が利益面に反映され当中間期の業績にも影響しています。加賀コンポーネント(株)はグループ会社との連携を強化し、より一層の営業努力と生産効率の向上など体質改善に取り組んできた効果がようやく表れ、当中間期では黒字となりました。一部の会社は、未だ再建の途上ではありますが、グループ会社との連携を視野に入れながら業績の改善を加速させているところです。

Q 当期の見通しについてお聞かせください。

A いままで先行して取り組んできた案件がビジネスとして形になりはじめ、確かな手応えを感じています。

社長／当中間期に引き続き「車載」「無線・通信」「環境関連」を中心としたビジネスの拡大に注力し、業績の向上に努めてまいります。

車載分野では、安全性を高めるための様々なセンサー類の需要がますます高まることが予想されます。当社グループもそれらに関連する車載向けデバイス、カメラモジュールなどの販売に注力していきます。

無線・通信分野では、当社グループが開発した通信モジュール製品の販売がお陰様で好評で更なる拡販に注力していきます。

環境関連分野では、当中間期から特に太陽光発電システムの受注が増加しています。メガソーラーな

ど大型案件の引き合いも格段に増えてきており、全て受注に結びつけていきたいと思っています。



会長／社長が説明した分野以外に、「メディカル・ヘルスケア」「美容」「介護」などの新しい分野にも積極的に取り組んでまいります。従来は私どものお客様になり得なかった業界が、IoT（注）により、様々な分野で電子部品や半導体が使われることが見込まれます。

当社グループは、成長分野を見極め、新しい商品、新しい取引先を開拓することを非常に得意としていますので、新たなビジネスチャンスが生まれてくるものと考えています。

Q 最後にメッセージをお願いします。

A 株主様の利益を増大させるべく、グループ一丸となって、邁進していきます。

(注) IoTとは「Internet of Things」モノのインターネット。

コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々なモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。

社長／この数年の間、エレクトロニクス業界の再編が続きそのスピードが加速しています。その変化の時にこそチャンスがあります。当社グループも時代の変化に機敏な対応をして、業容の拡大を目指していききたいと思います。

今後も車載、無線・通信、環境関連、海外ビジネスを拡大させながら、更なる新しい分野の開拓に注力していきます。

会長／エレクトロニクスの世界はめまぐるしいほどのスピードで進化し続けていますが、技術の多様化と製品の変化が予想されます。当社グループは、行動指針である「F.Y.T.」と「3G」の精神を持って、時代の変化をいち早く読み取り、世界各地で果敢に新しいビジネスに挑戦し、更なる業績の向

上を目指してまいります。そのためには、当期だけではなく将来に繋がる様な製品の開発や新しい分野の開拓を積極的に展開していきます。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成26年11月

第47期通期 連結業績サマリー(予想)

売上高▶	2,600億円 
	(前期比 0.8%増)
営業利益▶	53億円 
	(前期比 3.8%増)
経常利益▶	60億円 
	(前期比 2.6%増)
当期純利益▶	40億円 
	(前期比 3.2%増)



加賀電子グループは、エレクトロニクス総合商社として、
つねにあらゆる可能性にチャレンジしてきました。
当第2四半期におけるF.Y.T.の精神に基づく様々な取り組みをご紹介します。

ファイト・スピリッツ #01

新時代のハイブリッド防災ラジオ 「TAXAN MéoSound VL1(タクサンミーオサウンドバイエルワン)」 9/1より受注開始

加賀ハイテック(株)は、新時代のハイブリッド防災ラジオ「TAXAN MéoSound VL1 (タクサンミーオサウンドバイエルワン)」の商品化を決定し、平成26年9月1日より受注を開始しました。

受注開始に先駆け、8月27日には、(株)エフエム東京本社において、加賀ハイテックとエフエム東京が共同でVL1に

ついでにの記者向け説明会を開催し、災害時に役立つ防災ラジオの多彩な機能や特徴について説明を行いました。

今後、V-Low (バイロウ) マルチメディアの放送事業を行うエフエム東京では、V-Lowを活用した新しい防災情報システムの導入に際し、VL1を全国の自治体に働きかけていきます。



VL1の特徴

●3波受信

アナログ波 (AM、FM) とデジタル波 (V-Lowマルチメディア放送) の3波が受信可能で、FMおよびV-Lowで、緊急起動に対応 (電源OFFでも緊急信号により起動) します。

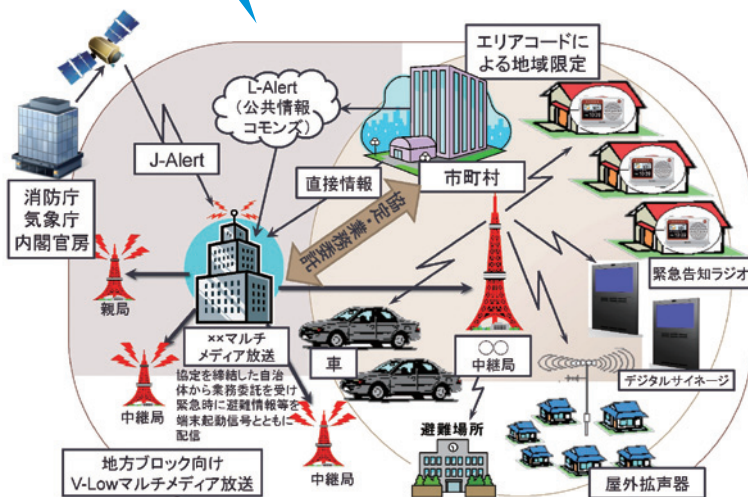
●音、画像、光でお知らせ

3.5インチのTFTカラー液晶、大型スピーカ、緊急アラームランプにより、情報をより明確に、幅広く伝えます。

●3電源方式

AC、充電電池、乾電池の3電源方式の採用により、確実な起動を実現し、避難時にも安心して駆動します。

V-Lowマルチメディア放送緊急告知イメージ



●自治体緊急告知イメージ

Nordic Semiconductor社との 販売代理店契約を締結

加賀デバイス(株)は、Bluetooth low energyで世界でも有数の実績を誇るノルウェーのNordic Semiconductor社との販売代理店契約を締結し、同社製品の販売活動を開始しました。

社 名	Nordic Semiconductor ASA
代 表 者	Svenn-Tore Larsen CEO
所 在 地	ノルウェー
事業内容	近距離無線通信技術で専門とする半導体開発



インドネシアに子会社を設立

KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITEDは、5月に新たな東南アジアでのEMSの拠点としてインドネシアにPT.KAGA ELECTRONICS INDONESIAを設立しました。既に協力工場で生産体制を整え、3年後には売上高30億円を目指してまいります。

社 名	PT.KAGA ELECTRONICS INDONESIA
代 表 者	長坂 浩永
所 在 地	インドネシア
事業内容	電子機器・電子部品等の製造および販売



加賀ハイテック(株)「CEATEC JAPAN 2014」に出展

加賀ハイテック(株)は、10月7日から11日まで幕張メッセで開催された「CEATEC JAPAN 2014」に今年も出展しました。

「Digital LifeはNextStageへ」をコンセプトに、TAXANブランド“Méoシリーズ”新製品に加えて、同社が販売に注力する今年最大の注目のウェアラブル製品スマートウォッチの「MYKRONOZ」をはじめ、ドッキングステー

ションの「J5create」や「Belkin」他、モバイル、ワイヤレス、ウルトラPC、スマートフォン関連の魅力

的な周辺機器を展示しました。また、全体の会期入場者数は前年を上回り、多くの皆様にご覧いただきました。



●加賀ハイテック展示ブース

TAXANブランド新製品

Méo Power
Quattro



●TAXAN MéoPower Quattro

MéoSound
transmitter WB



●TAXAN MéoSound transmitter WideBand

MéoBank SD
High-Speed



●TAXAN MéoBank SD HS

スマートウォッチ

MYKRONOZ
DESIGNED IN SWITZERLAND



●ZeWatch2

COGITO
CLASSIC



●COGITO CLASSIC

Financial Highlights

■財務ハイライト

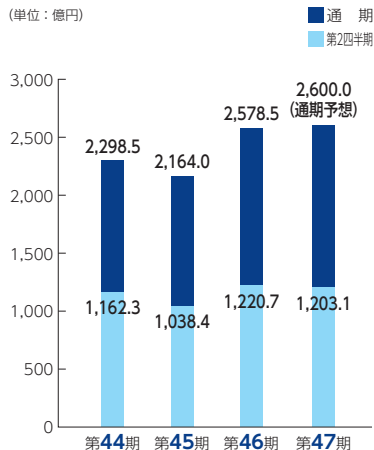
連結売上高 **120,318** 百万円
(前年同期比1.4%減)

連結経常利益 **3,636** 百万円
(前年同期比49.2%増)

連結四半期純利益 **2,157** 百万円
(前年同期比59.4%増)

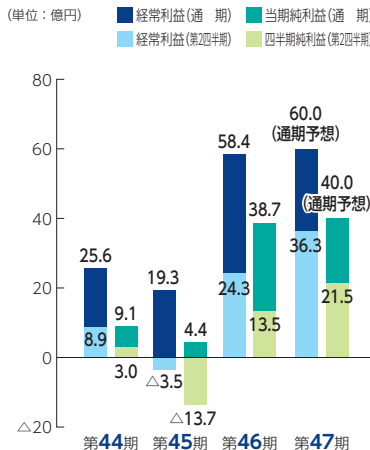
■連結売上高

(単位：億円)



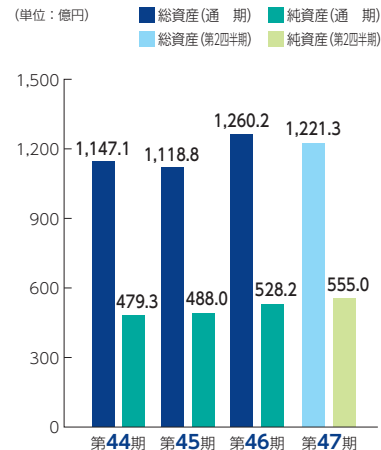
■連結経常利益／連結四半期(当期)純利益

(単位：億円)



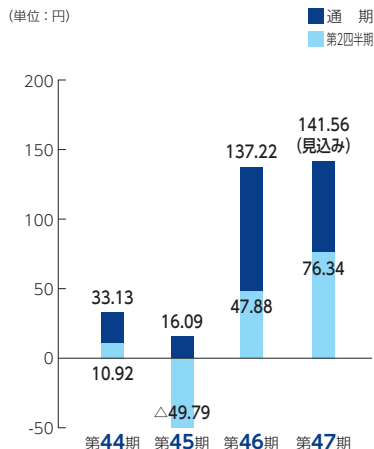
■連結総資産／連結純資産

(単位：億円)



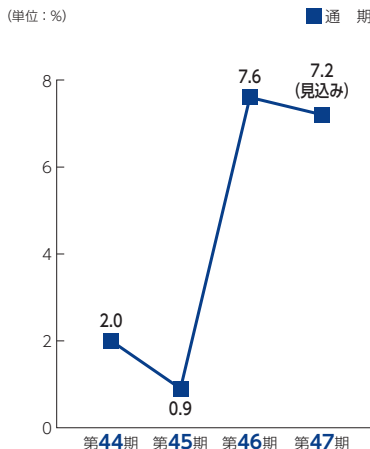
■1株当たりの連結四半期(当期)純利益

(単位：円)



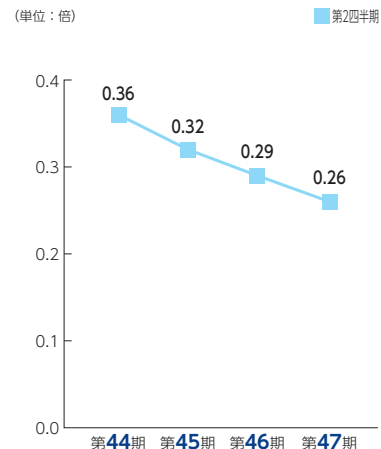
■ROE

(単位：%)



■D／Eレシオ

(単位：倍)



ROE(自己資本利益率)は、株主の皆様への投資を活用した結果、どのくらい利益を得たのかを示す指標です。
ROE(%)＝当期純利益÷自己資本×100

D/Eレシオ(Debt Equity ratio)は、有利子負債と自己資本の比で、長期の支払い能力を示す指標です。
D/Eレシオ(倍)＝有利子負債÷自己資本

Consolidated Financial Statements

■財務諸表（連結）

■四半期連結損益および包括利益計算書（単位：百万円）

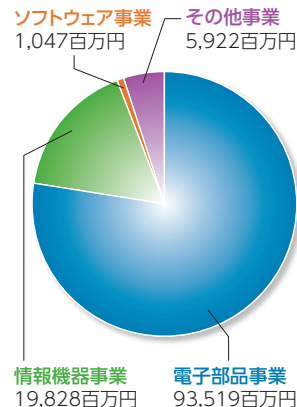
科 目	前第2四半期（累計） （自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）	当第2四半期（累計） （自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）
売上高	122,077	120,318
売上原価	106,348	104,521
売上総利益	15,728	15,796
販売費及び一般管理費	13,534	12,729
営業利益	2,194	3,067
営業外収益		
受取利息	26	78
受取配当金	56	65
受取手数料	103	170
為替差益	15	161
その他	193	197
営業外収益合計	396	674
営業外費用		
支払利息	64	58
投資事業組合運用損	54	3
その他	34	43
営業外費用合計	153	105
経常利益	2,437	3,636
特別利益		
固定資産売却益	1	7
投資有価証券売却益	5	3
その他	—	1
特別利益合計	6	12
特別損失		
固定資産除却損	15	4
投資有価証券評価損	34	166
減損損失	—	8
事務所移転費用	26	4
和解金	—	64
その他	12	1
特別損失合計	90	249
税金等調整前四半期純利益	2,354	3,400
法人税、住民税及び事業税	757	998
法人税等調整額	236	237
法人税等合計	994	1,236
少数株主損益調整前四半期純利益	1,360	2,164
少数株主利益	7	7
四半期純利益	1,352	2,157
少数株主利益	7	7
少数株主損益調整前四半期純利益	1,360	2,164
その他の包括利益		
その他の有価証券評価差額金	219	214
繰延ヘッジ損益	6	40
為替換算調整勘定	514	620
退職給付に係る調整額	—	33
その他の包括利益合計	740	909
四半期包括利益（内訳）	2,100	3,073
親会社株主に係る四半期包括利益	2,094	3,066
少数株主に係る四半期包括利益	5	7

（注）記載金額単位未満の端数については、切捨ての方法で表示しております。

当第2四半期（累計）業績の概要

当社グループは、グループ全体の連携を強化し、既存大手顧客への拡販や新商材の開拓などに努める一方、本社移転による賃借料の減少など費用削減に努めてまいりました。その結果、第2四半期連結累計期間における売上高は120,318百万円（前年同期比1.4%減）、営業利益は3,067百万円（前年同期比39.8%増）、経常利益は3,636百万円（前年同期比49.2%増）となり、また、四半期純利益は2,157百万円（前年同期比59.4%増）となりました。

■セグメント別売上高



■情報機器事業（パソコン、PC周辺機器、写真・映像関連商品およびオリジナルブランド商品などの販売など）

情報機器事業は、WindowsXPのサポート終了に伴うパソコンの買い替え需要によりパソコンの売上高が増加し、また、住宅向け関連商材や環境関連ビジネスなども好調に推移しましたが、デジタル家電の需要が低迷した影響により利益が減少しました。その結果、売上高は19,828百万円（前年同期比0.3%増）となり、セグメント利益は162百万円（前年同期比12.0%減）となりました。

■ソフトウェア事業（CG映像制作、アニメーションなどの開発・販売など）

ソフトウェア事業は、アニメーションのCG制作やゲームソフトの開発および販売に注力しましたが、電子玩具の開発などにおいて受注が減少しました。その結果、売上高は1,047百万円（前年同期比32.3%減）、セグメント利益は122百万円（前年同期比47.0%減）となりました。

■電子部品事業（半導体、一般電子部品、EMSなどの開発・製造・販売など）

電子部品事業は、国内のアニメーション機器向けEMSや通信機器向け半導体などの売上高が減少しましたが、海外の電子機器向けEMSなどが好調に推移したことにより利益は増加しました。その結果、売上高は93,519百万円（前年同期比1.1%減）となり、セグメント利益は2,648百万円（前年同期比65.4%増）となりました。

■その他事業（エレクトロニクス機器の修理・サポートやスポーツ用品の販売など）

その他事業は、国内のアニメーション業界向けゲーム機器の販売が伸び悩み売上高が減少しました。また、ゴルフ用品販売事業における取扱製品の入替えにともなう費用増加などにより利益が減少しました。その結果、売上高は5,922百万円（前年同期比3.9%減）となり、セグメント利益は51百万円（前年同期比70.5%減）となりました。

Consolidated Financial Statements

■財務諸表（連結）

■四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	前期末 (平成26年3月31日現在)	当第2四半期末 (平成26年9月30日現在)	科 目	前期末 (平成26年3月31日現在)	当第2四半期末 (平成26年9月30日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	102,930	99,199	流動負債	63,410	57,569
現金及び預金	14,192	14,967	支払手形及び買掛金	41,695	39,190
受取手形及び売掛金	60,667	56,449	短期借入金	12,172	10,406
有価証券	114	114	未払法人税等	1,525	1,095
商品及び製品	16,378	16,699	その他	8,016	6,877
仕掛品	848	910	固定負債	9,792	9,054
原材料及び貯蔵品	3,991	4,651	長期借入金	4,681	3,967
繰延税金資産	993	853	役員退職慰労引当金	1,437	1,457
その他	5,836	4,599	退職給付に係る負債	1,954	1,656
貸倒引当金	△93	△47	その他	1,719	1,973
固定資産	23,098	22,933	負債合計	73,202	66,623
有形固定資産	12,625	12,354	純資産の部		
建物及び構築物（純額）	5,737	5,573	株主資本	52,923	54,703
機械装置及び運搬具（純額）	1,711	1,853	資本金	12,133	12,133
工具、器具及び備品（純額）	1,004	885	資本剰余金	13,912	13,912
土地	4,038	4,039	利益剰余金	27,414	29,194
建設仮勘定	133	2	自己株式	△536	△536
無形固定資産	1,533	1,264	その他の包括利益累計額	△137	771
のれん	715	654	その他有価証券評価差額金	161	375
ソフトウェア	486	472	繰延ヘッジ損益	0	40
その他	332	137	為替換算調整勘定	5	626
投資その他の資産	8,938	9,314	退職給付に係る調整累計額	△304	△271
投資有価証券	5,377	5,848	少数株主持分	39	33
繰延税金資産	562	466	純資産合計	52,825	55,509
その他	4,015	3,952	負債純資産合計	126,028	122,132
貸倒引当金	△1,017	△952			
資産合計	126,028	122,132			

（注）記載金額単位未満の端数については、切捨ての方法で表示しております。

■四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）（単位：百万円）

科 目	前第2四半期（累計） （自平成25年4月 1 日） （至平成25年9月30日）	当第2四半期（累計） （自平成26年4月 1 日） （至平成26年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,772	4,940
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,033	△730
財務活動によるキャッシュ・フロー	△708	△3,409
現金及び現金同等物に係る換算差額	186	202
現金及び現金同等物の増減額	2,217	1,003
現金及び現金同等物の期首残高	11,878	13,361
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,096	14,365

（注）記載金額単位未満の端数については、切捨ての方法で表示しております。

第47期の通期業績見通し

通期の業績予想につきましては、当第2四半期において国内における半導体など電子部品や国内外におけるEMSビジネスなどの取引が好調に推移いたしました。依然として先行き不透明な状況が続いていることを踏まえた結果、以下の通りとなります。

《連結業績見通し》

連結売上高	260,000百万円
連結経常利益	6,000百万円
連結当期純利益	4,000百万円

配当金のお知らせ

当社は、安定的な長期的視点に立った財務体質と経営基盤の強化に努めるとともに、連結業績を鑑みながら株主の皆様に対する安定的かつ継続的な配当の維持を基本方針としております。

当中間配当金につきましては、上記の方針ならびに経営環境を検討した結果、1株当たり15円00銭とさせていただきます。

なお、期末配当金につきましても上記方針に基づき、第2四半期末と同額の15円00銭とし、年間30円00銭とさせていただきます。予定であります。

Group Network

■グループ・ネットワーク

本社 TEL. 03-5657-0111

電子事業部

電子事業部 TEL. 03-5657-0121
 北関東営業所 TEL. 048-667-3321
 北陸営業所 TEL. 076-262-0711
 関西営業所 TEL. 06-6105-0430
 名古屋営業所 TEL. 052-746-6480
 新横浜営業所 TEL. 045-473-7321
 浜松営業所 TEL. 053-457-1661
 福岡営業所 TEL. 092-282-1140
 仙台営業所 TEL. 022-722-7410
 京都営業所 TEL. 075-353-4551
 新潟営業所 TEL. 0258-38-8351

海外事業部

海外事業部 TEL. 03-5657-0124

特販事業部

特販事業部 TEL. 03-5657-0123

営業推進事業部

営業推進事業部 TEL. 03-5657-0110

特機事業部

特機事業部 TEL. 03-5931-0102
 特機第二営業部 TEL. 052-746-6481

EMS事業部

EMS事業部 TEL. 03-5931-0106

技術統括部

技術統括部 TEL. 03-5657-0130

ICT事業部

ICT事業部 TEL. 03-5657-0128

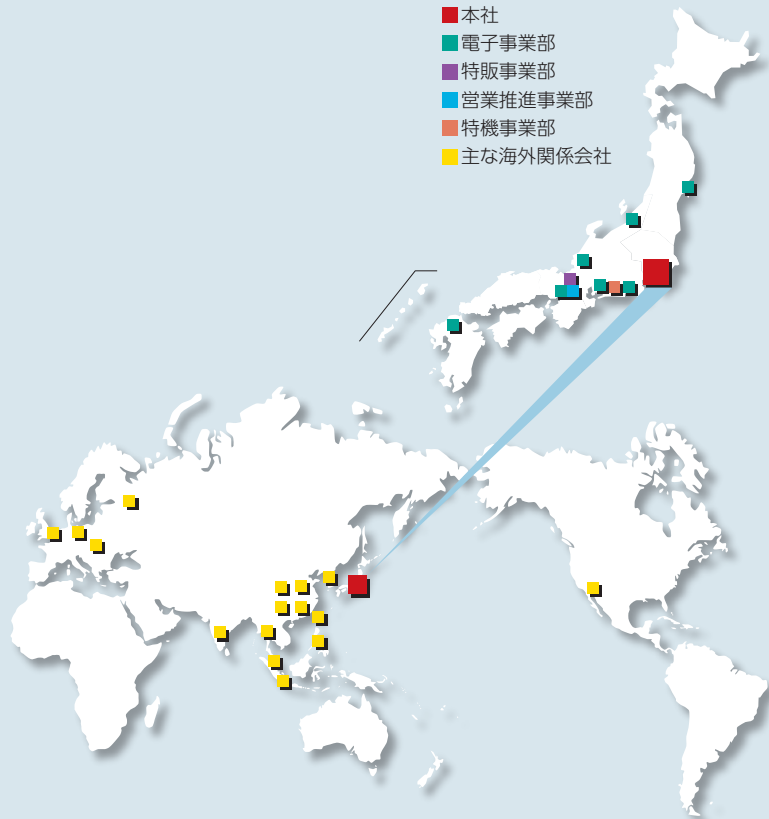
環境事業部

環境事業部 TEL. 03-5657-0129

デバイスソリューション部

デバイスソリューション部 TEL. 03-5657-0127

- 本社
- 電子事業部
- 特販事業部
- 営業推進事業部
- 特機事業部
- 主な海外関係会社



主な国内関係会社

加賀デック(株) TEL. 03-5657-0140
 加賀デバイス(株) TEL. 03-5657-0144
 加賀ソルネット(株) TEL. 03-5931-0123
 加賀コンポーネント(株) TEL. 03-5931-0160
 (株)イー・ディーデバイス TEL. 03-5657-0141
 加賀フリエイト(株) TEL. 03-5931-0143
 マイクロソリューション(株) TEL. 03-5657-0150
 (株)デジタル・メディア・ラボ TEL. 03-5931-0147
 加賀スポーツ(株) TEL. 03-5657-0148
 加賀ハイデック(株) TEL. 03-5931-0111
 加賀アミューズメント(株) TEL. 03-5931-0134
 (株)ワークビット TEL. 046-261-3228
 (株)エスアイエレクトロニクス TEL. 03-5931-0140

主な海外関係会社

KAGA (H.K.) ELECTRONICS LIMITED
 KAGA (SINGAPORE) ELECTRONICS PTE LTD
 KAGA (KOREA) ELECTRONICS CO., LTD.
 KAGA (TAIWAN) ELECTRONICS CO., LTD.
 加賀電子(上海)有限公司
 KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITED
 KAGA DEVICES (H.K.) LIMITED
 KAGA ELECTRONICS (USA) INC.
 加賀電子(大連)有限公司
 KAGA (EUROPE) ELECTRONICS LTD.

Stock Information & Corporate Data

■株式の状況／会社概要（平成26年9月30日現在）

■株式の状況

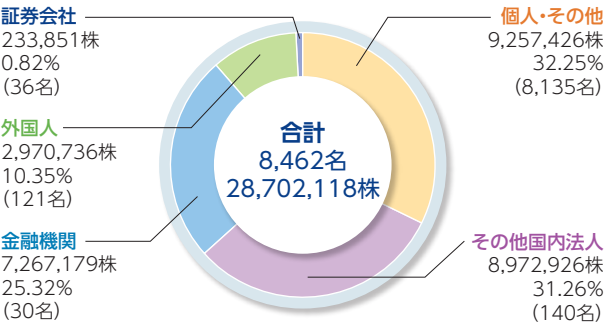
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	28,702,118株
単元株式数	100株
株主数	8,462名

大株主の状況（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三共	3,824	13.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,956	10.30
株式会社OKOZE	1,740	6.06
加賀電子従業員持株会	1,345	4.69
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,212	4.22
株式会社みずほ銀行	950	3.31
塚本 勲	787	2.74
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	575	2.01
沖電気工業株式会社	526	1.83
三菱電機株式会社	500	1.74

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて記載しております。
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の持株数は、信託業務によるものであります。

■所有者別株式分布状況



■会社概要

設 立	昭和43年9月12日
資 本 金	121億3,354万円
従 業 員 数	579名 (男401名・女178名)
平 均 年 齢	38.7歳 (男41.1歳・女33.3歳)
事 業 の 内 容	当社は、電子機器用エレクトロニクス 部品の企画、開発、製造、仕入販売、 コンピュータおよび周辺機器・関連部 品・付属品・ソフトウェアなどの仕入 販売ならびに輸出入を主な業務とし、 これに付帯する業務も営んでおります。

■役 員

代表取締役会長	塚 本 勲
代表取締役副会長	塚 本 外茂久
代表取締役社長	門 良 一
専 務 取 締 役	下 山 和 一郎
専 務 取 締 役	高 橋 信 佐
専 務 取 締 役	高 師 幸 男
専 務 取 締 役	箕 新 太 郎
取 締 役	川 村 英 治
常 勤 監 査 役	石 川 正 弘
常 勤 監 査 役	隅 野 起 久 夫
監 査 役	佐 瀬 正 俊
監 査 役	田 中 雄 一 郎

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)

特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同連絡先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (通話料無料)
*平成25年3月15日付の当社とイー・ディ・エム
株式会社との株式交換により当社株式を保有され
た株主様のうち、特別口座でご所有の株主様につ
きましては、三菱UFJ信託銀行株式会社が特別口
座の口座管理機関となっております。

公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない事故その他
のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞
(東京)に掲載します。
公告掲載URL <http://www.taxan.co.jp/>

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、『特別口座』にて株式を保有の株主様（株券電子化対応に伴い証券会社に株式をお預けになっていらっしゃる株主様）は、特別口座の口座管理機関にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

【表紙・絵】宮坂 健 Ken Miyasaka



《虹都市》

ずっと楽園志向の作品が続いている。人間が
というより、あらゆる生
き物の楽園、光にあふ
れ、暖かな風がそよぐ
心地よい世界、それは
人間が失ってしまった、

あるいは今も失い続けている世界なのかもしれない。地平遠くに
地球が見えている。

作者略歴:1949年生まれ 安井賞展、浅井忠記念賞展、
セントラル油画大賞展、日本青年画家展等
個展:日本橋三越等
著書:『地球、旅の記憶』

KAGA ELECTRONICS CO.,LTD.

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地
TEL.03-5657-0111 (代) FAX.03-3254-7131
<http://www.taxan.co.jp/>
東証一部：証券コード 8154



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



JISQ 14001:1996
登録番号 JSAE594



EMS Accreditation
認定番号 RE005